

## 生活環境に合わせた車椅子選び

愛媛頸髄損傷者連絡会 S. F

19歳で受傷し現在39歳、左半身C4右半身C5レベルで手首の動きはないが右腕でのジョイスティック操作が可能な身体状況です。受傷当時は呼吸器使用、離脱しての車椅子への移乗がはじめの目標でした。リハビリ期に介助用車椅子を作成、それに合わせて自宅改修・生活準備を行いました。

初の電動車椅子はリハビリ期に購入した車椅子を参考に車幅・座面高を考慮して、今仙手動リクライニング型。2台目もほぼ同じ構成で更新。3台目は自立生活環境を考慮し、サイズ感が近く電動チルト・リクライニング・フットエレベーター・昇降リフト機能が付いたペルモビール C400 ローライダーが今の車椅子です。初期設定が座面高41cmという低さで、車幅61cm。今まで使ってきた洗面台・テーブル・スイッチ類がそのまま使えます。宿泊先のバリアフリールームではほとんどのものが利用できるサイズです。タクシー利用の機会も多いので、ほとんどの軽自動車タクシーに乗れるのも決めて手です。

座面クッションも様々なものを試し、姿勢保持で有名なJAYクッションを採用。しかし流動体クッションは長時間の利用に不安があったため、流動体部分をROHOクッションに変更した今までの構成に近いものにしました。ROHOの除圧性を残しながら、骨盤周辺は保持がしっかりしています。

今後の希望としてはブレーキ・バックランプの様なものが開発されないかなと思っています。車道で一般ドライバーには車椅子がどうしたいのかがなかなか伝わりにくそうに思います。ランプが点灯すると停止しようとする意思表示になり、後輪で足を踏んだりぶつかったりする機会も減るように思います。



リクライニング・チルト・リフト使用時



ほとんどの軽自動車に乗車可能



多目的トイレの洗面台が使えます



JAY3クッションの中身はROHO